

---

2019年度第2四半期決算 及び  
2019年度業績見通し

---

説明資料

帝人株式会社  
2019年11月1日

## 第2四半期のポイント

### ■ 上期実績

上期の営業利益は、ポリカーボネート市況の低迷や主力医薬品の欧米における後発品の影響で前年対比減益（▲24億円）となった一方、自動車向け複合成形材料事業のCSP社<sup>\*1</sup>における想定通りの収益性回復の進捗に加え、アラミド事業、国内ヘルスケア事業、IT事業の好調により、前回見通し320億円に対して338億円（+18億円）となった。

### ■ 通期見通し

CSP社複合成形材料の主要用途であるピックアップトラックおよびSUVの北米需要は堅調である一方、欧州・中国での自動車販売低迷の影響が、マテリアルの各事業において顕在化しつつあり、さらなる世界経済の成長鈍化を想定し、通期の営業利益を前回見通し<sup>\*2</sup> 600億円から550億円に修正する。

\*1 Continental Structural Plastics Holdings Corporation

\*2 前回見通しは2019年8月2日公表

1. 2019年度第2四半期決算	P. 3
2. 2019年度業績見通し	P.12
3. 参考資料	P.16

---

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2019年11月1日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

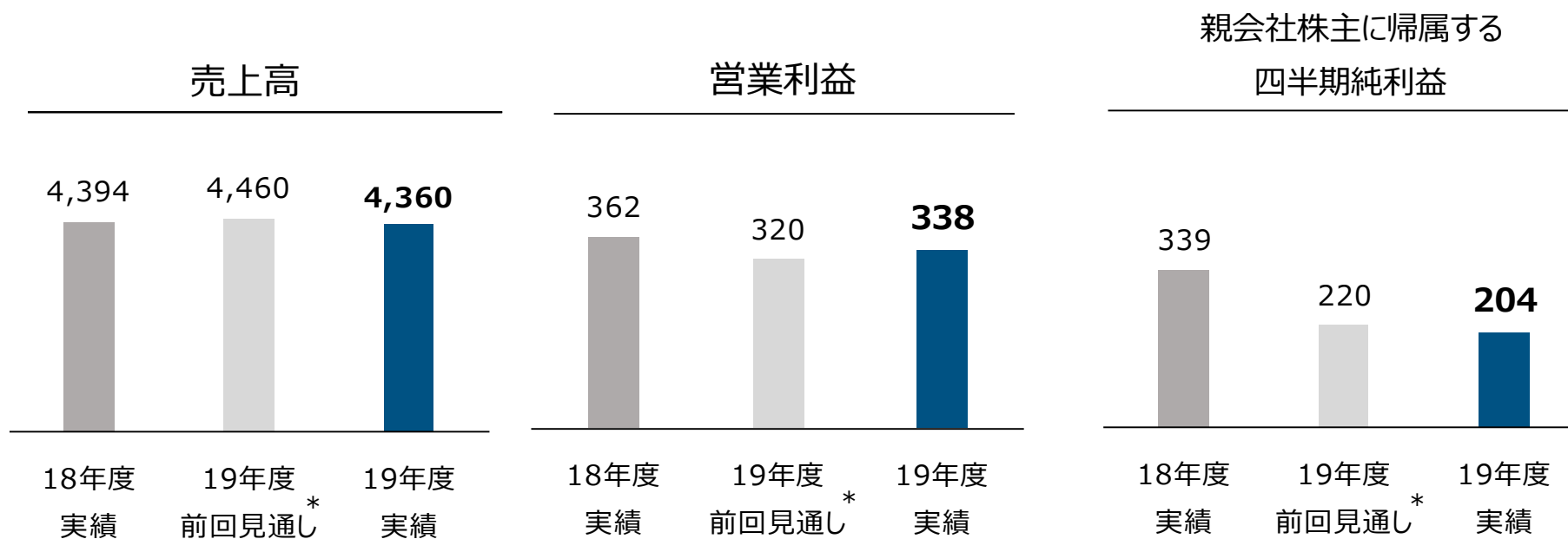
---

# 1. 2019年度第2四半期決算

## ◆ 上期実績ハイライト [前年同期対比]

- ポリカーボネート市況の低迷や主力医薬品の海外後発品の影響により微減収・減益
- 為替影響による営業外損益の悪化に加え、フィルム事業子会社譲渡に係る一時費用の特別損失への計上等もあり、四半期純利益も減益

(単位：億円)



\* 前回見通しは2019年8月2日公表

## ◆ 上期実績

	(億円)			
	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
売上高	4,394	4,360	-34	-0.8%
営業利益	362	338	-24	-6.7%
営業外損益	36	-7	-42	-
経常利益	398	331	-67	-16.8%
特別損益	36	-41	-77	-
税金等調整前 四半期純利益	433	290	-144	-33.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	339	204	-135	-39.7%

ROE <sup>*1</sup>	16.7%	10.0%	-6.7%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	10.8%	10.1%	-0.6%
EBITDA <sup>*3</sup>	596	588	-8

\*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本」にて算出  
(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*1,2は年換算後の数値

	(億円)			
	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
設備投資 <sup>*4</sup>	259	296	+37	+14.4%
減価償却費	234	251	+17	+7.1%
研究開発費	167	164	-3	-2.1%

## ◇ 為替・原油価格

		18年度 上期	19年度 上期
PL換算レート	円/米ドル	110	109
	円/ユーロ	130	121
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		73	64

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む

## ◆ セグメント別

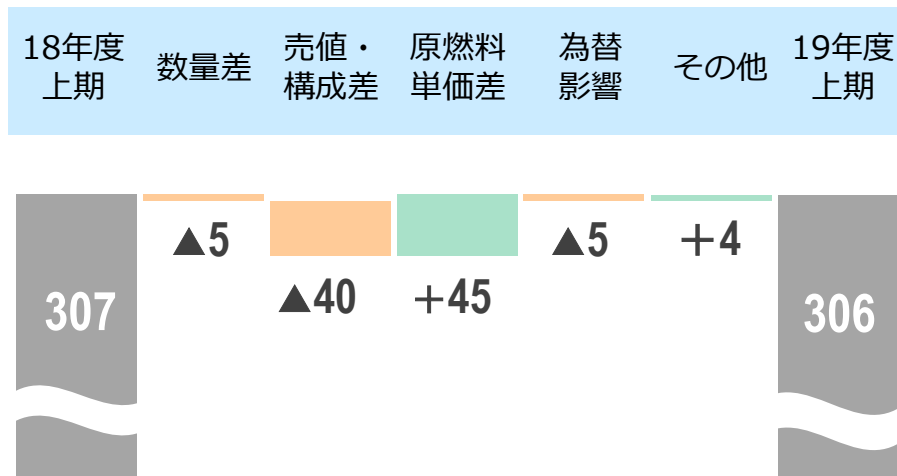
	18年度実績			19年度実績			差異 前年同期 対比	増減率	(億円)	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期			19年度 前回見通し* 上期	差異 前回 見通し対比
売上高										
マテリアル事業	687	657	1,344	627	610	1,238	-106	-7.9%	1,295	-57
繊維・製品事業	738	803	1,540	738	804	1,542	+2	+0.1%	1,650	-108
複合成形材料事業ほか	219	217	436	234	244	478	+42	+9.6%	455	+23
マテリアル 計	1,644	1,676	3,320	1,599	1,659	3,258	-62	-1.9%	3,400	-142
ヘルスケア	392	412	804	398	391	789	-15	-1.9%	760	+29
その他	128	142	270	149	164	314	+44	+16.2%	300	+14
<b>合計</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>4,394</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>4,360</b>	<b>-34</b>	<b>-0.8%</b>	<b>4,460</b>	<b>-100</b>
営業利益										
マテリアル	90	56	146	64	65	129	-17	-11.4%	140	-11
ヘルスケア	99	119	219	105	89	194	-24	-11.1%	185	+9
その他	6	19	26	13	25	39	+13	+51.3%	25	+14
消去又は全社	-13	-15	-28	-13	-11	-25	+3	-	-30	+5
<b>合計</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>362</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>338</b>	<b>-24</b>	<b>-6.7%</b>	<b>320</b>	<b>+18</b>

\* 前回見通しは2019年8月2日公表

◆ マテリアル事業領域

	(億円)			
	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
売上高	3,320	3,258	-62	-1.9%
営業利益	146	129	-17	-11.4%
EBITDA*	307	306	-1	-0.4%
減価償却費	161	177	+15	+9.5%

<EBITDA\*増減内訳>



\* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

■ アラミド繊維

- 自動車関連用途で販売数量やや減少
- 売値・構成差の改善で収益貢献

■ 炭素繊維

- 航空機用途は順調に推移
- コンパウンド用途の販売減少
- 先行投資増あり

■ 樹脂

- ポリカーボネート市況の悪化による製品価格の低下を原料価格低下で補えず

■ 複合成形材料他

- CSP社の自動車向け量産部品売上が堅調

■ 繊維・製品

- 衣料繊維は低調
- 産業資材では自動車向けが不振だがインフラや水処理向けが収益貢献



## ◆ ヘルスケア事業領域

	(億円)			
	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
売上高	804	789	-15	-1.9%
営業利益	219	194	-24	-11.1%
EBITDA*	278	254	-24	-8.7%
減価償却費	59	59	+0	+0.1%

## ＜EBITDA\*増減内訳＞ (億円)

18年度 上期	数量差	売値・ 構成差	その他	19年度 上期
------------	-----	------------	-----	------------



\* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

## ■ 医薬品

- 「フェブリク」が国内では順調に販売拡大したが、欧米で後発品の影響を受け収益低下

## ■ 在宅医療

- 睡眠時無呼吸症候群治療におけるCPAPのレンタル台数が順調に伸長

## ■ 新ヘルスケア

- 埋め込み型医療機器事業が堅調

## ◆ その他

	(億円)			
	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
売上高	270	314	+44	+16.2%
営業利益	26	39	+13	+51.3%

## ■ IT

- 電子コミック配信サービス及び  
病院向けITサービスが順調

## ◆ 営業外損益

	(億円)		
	18年度 上期	19年度 上期	差異
受取利息	5	5	+0
受取配当金	13	8	-5
持分法による投資利益	14	11	-3
為替差益	-	19	+19
デリバティブ評価益	43	-	-43
雑収益	6	3	-3
営業外収益 計	81	47	-35
支払利息	17	19	+2
為替差損	18	-	-18
デリバティブ評価損	-	21	+21
雑損失	10	14	+4
営業外費用 計	46	53	+8
営業外損益 計	36	-7	-42

## ◆ 特別損益

	(億円)		
	18年度 上期	19年度 上期	差異
固定資産売却益	3	0	-2
投資有価証券売却益	36	38	+2
受取和解金	45	-	-45
その他	2	5	+3
特別利益 計	85	44	-42
固定資産除売却損	9	11	+2
減損損失	39	20	-20
事業構造改善費用	0	44	+44
その他	1	10	+9
特別損失 計	50	85	+35
特別損益 計	36	-41	-77

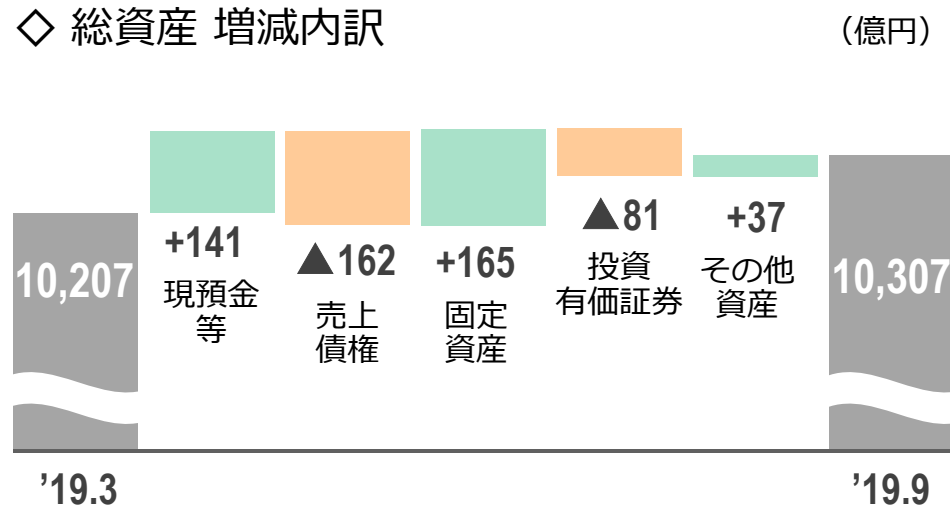
◆ 財政状態

				(億円)	
	19年 3月末	19年 9月末	差異	内 為替 換算影響	
総資産	10,207	10,307	+100	-154	
負債	5,934	6,103	+169	-49	
(内 有利子負債)	3,692	4,076	+385	-26	
純資産	4,272	4,204	-68	-104	
D/Eレシオ	0.90	1.01	+0.11	-	

◆ キャッシュ・フローの状況

				(億円)	
	18年度 上期	19年度 上期	差異		
営業活動	339	416	+77		
投資活動	-423	-487	-64		
フリー・キャッシュ・フロー	-84	-71	+13		
財務活動他	199	211	+12		
現金及び 現金同等物増減	115	140	+25		

◇ 総資産 増減内訳



◇ BS換算レート

	19年 3月末	19年 9月末
円/米ドル	111	108
円/ユーロ	125	118

## 2. 2019年度業績見通し

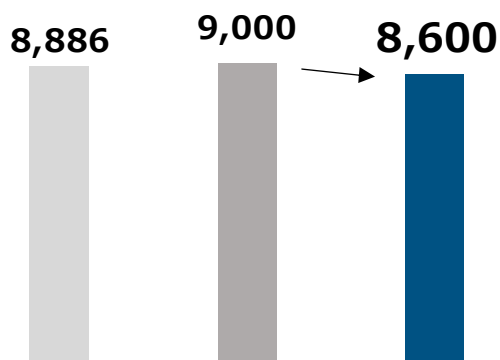
◆ 通期見通しハイライト **[前回見通し対比]**

(単位：億円)

親会社株主に帰属する  
当期純利益

売上高

4.4%減

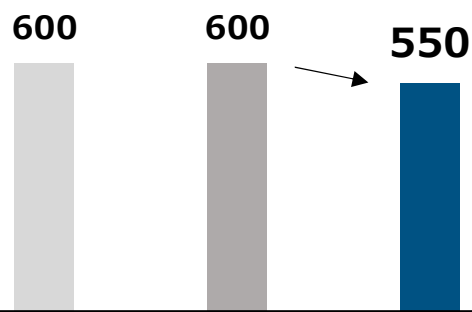


18年度実績 19年度前回見通し\* 19年度見通し

- マテリアル：下方修正
- ヘルスケア：据え置き

営業利益

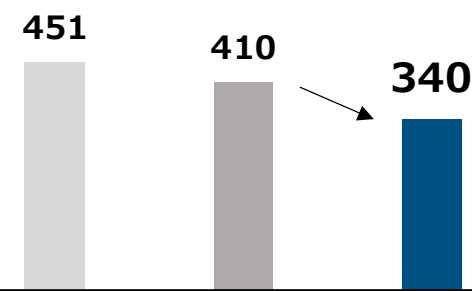
8.3%減



18年度実績 19年度前回見通し\* 19年度見通し

- マテリアル：下方修正
- ヘルスケア：据え置き

17.1%減



18年度実績 19年度前回見通し\* 19年度見通し

- 特別損失の影響もあり、下方修正

◇前提条件

	18年度実績	19年度前回見通し*	19年度見通し
通期平均為替レート 円/米ドル	111	108	108
円/ユーロ	128	123	121
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	69	65	62

配当金見通し：

**据え置き (年間 60円/株)**

中間実績 30円/株 期末 30円/株

## ◆ 通期見通し

	(億円)	18年度	19年度	差異	増減率	19年度	前回見通し	増減率
		実績	見通し			前回見通し <sup>*5</sup>	との差異	
売上高		8,886	8,600	-286	-3.2%	9,000	-400	-4.4%
営業利益		600	550	-50	-8.3%	600	-50	-8.3%
経常利益		603	540	-63	-10.4%	600	-60	-10.0%
親会社株主に帰属する当期純利益		451	340	-111	-24.5%	410	-70	-17.1%
ROE <sup>*1</sup>		11.2%	8%	-3%		10%	-2%	
営業利益ROIC <sup>*2</sup>		9.3%	8%	-1%		9%	-1%	
EBITDA <sup>*3</sup>		1,076	1,080	+4		1,150	-70	
フリー・キャッシュ・フロー		396	150	-246		150	0	
設備投資 <sup>*4</sup>		628	700	+72		700	0	
減価償却費		476	530	+54		550	-20	
研究開発費		364	380	+16		380	0	

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出 \* 純資産+有利子負債-現金及び預金

\*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

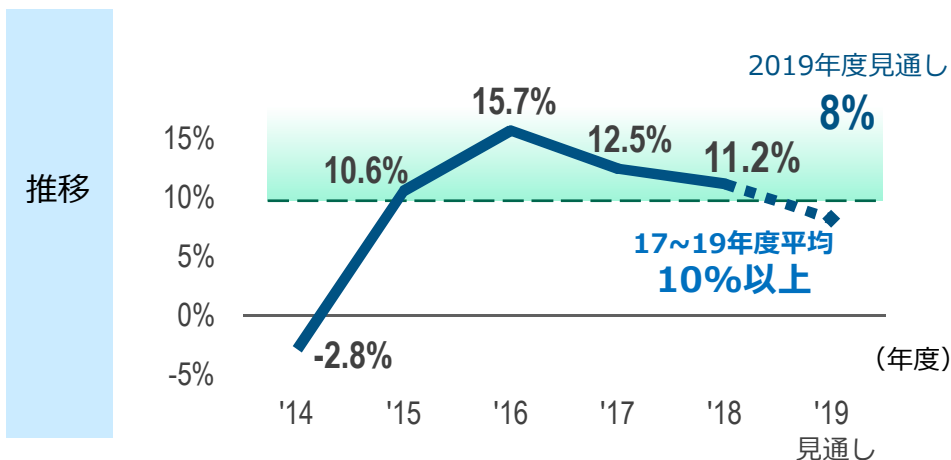
\*4 設備投資には無形固定資産を含む

\*5 前回見通しは2019年8月2日公表

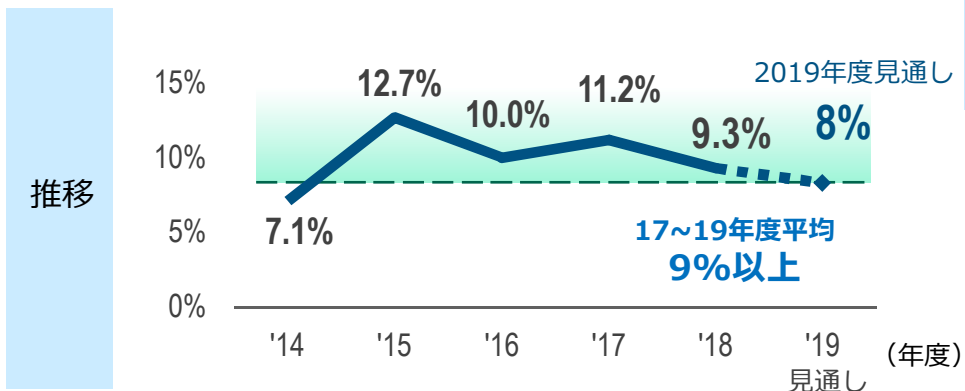
◆ 業績指標

- ・ ROEは2017-2018年度は中期目標を達成も、2019年度は未達見込み
- ・ 営業利益ROICは中期目標を達成見込み
- ・ EBITDAは2019年度の中期目標を未達見込み

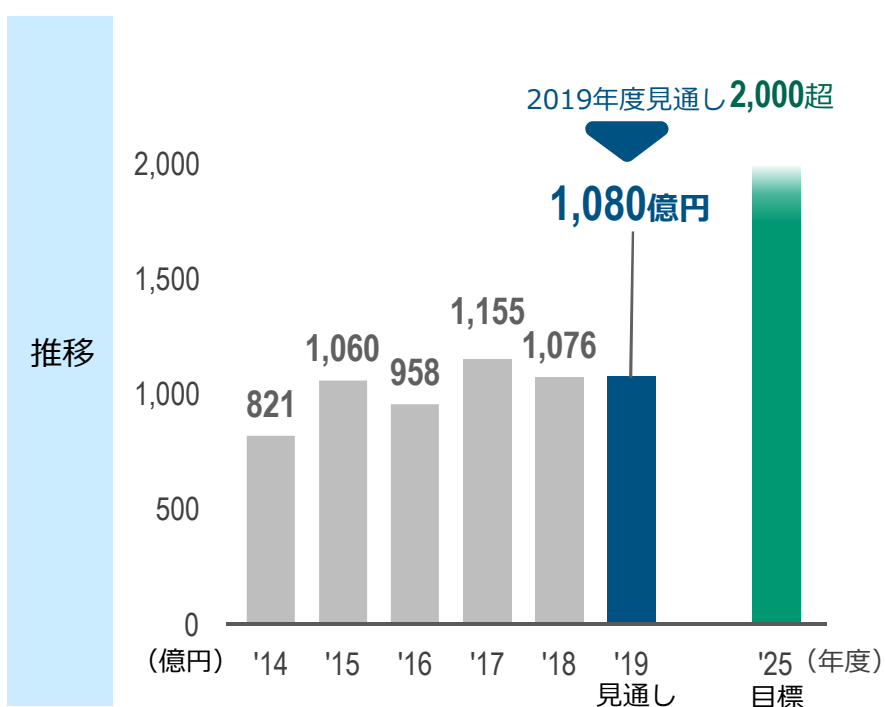
中期目標 ROE\*1 **10%以上**



中期目標 営業利益ROIC\*2 **8%以上**



中期目標 EBITDA\*3 2019年度 **1,200億円超**  
2025年度 **2,000億円超**



\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出

\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出



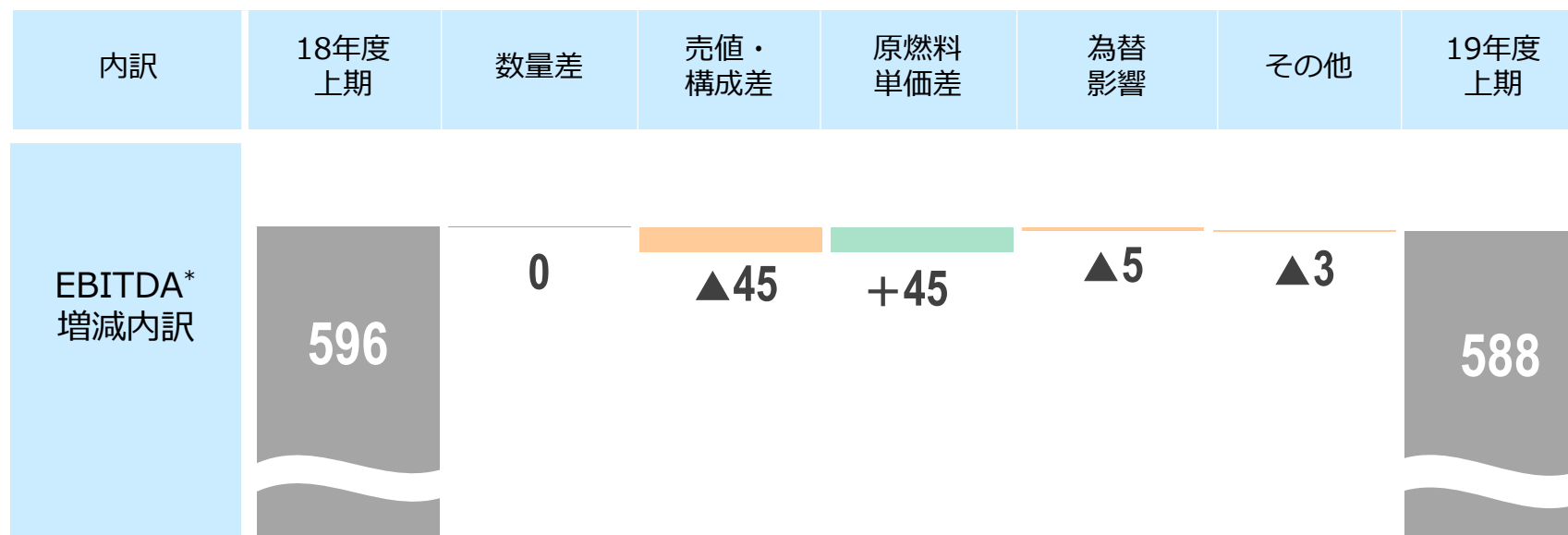
### 3. 参考資料

## ◆ EBITDA\*増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	18年度 上期	19年度 上期	差異	増減率
売上高	4,394	4,360	-34	-0.8%
営業利益	362	338	-24	-6.7%
EBITDA	596	588	-8	-1.3%
減価償却費	234	251	+17	+7.1%

（億円）



\* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

	18年度				19年度	19年度	差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	19/2Q -18/2Q	19/2Q -19/1Q
売上高								
マテリアル事業	687	657	628	667	627	610	-46	-17
繊維・製品事業	738	803	812	831	738	804	+2	+67
複合成形材料事業ほか	219	217	227	231	234	244	+27	+10
マテリアル 計	1,644	1,676	1,667	1,729	1,599	1,659	-17	+60
ヘルスケア	392	412	397	374	398	391	-21	-7
その他	128	142	139	187	149	164	+22	+15
<b>合計</b>	<b>2,164</b>	<b>2,230</b>	<b>2,202</b>	<b>2,289</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>-16</b>	<b>+68</b>
営業利益								
マテリアル	90	56	27	62	64	65	+9	+1
ヘルスケア	99	119	94	42	105	89	-30	-16
その他	6	19	13	33	13	25	+6	+12
消去又は全社	-13	-15	-15	-18	-13	-11	+3	+2
<b>合計</b>	<b>183</b>	<b>179</b>	<b>119</b>	<b>119</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>-11</b>	<b>-2</b>

## ◆ 連結損益計算書 四半期推移

	18年度				19年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,164	2,230	2,202	2,289	2,146	2,214
売上原価	1,477	1,556	1,564	1,610	1,470	1,534
売上総利益	687	674	638	679	677	680
販管費	505	494	519	560	507	512
営業利益	183	179	119	119	170	168
営業外損益	29	6	-4	-29	-1	-6
（内 金融収支）	6	-6	1	-4	-1	-5
（内 持分法投資損益）	3	11	2	-12	4	7
経常利益	212	186	115	90	169	162
特別損益	49	-13	-6	-29	-18	-23
税金等調整前四半期純利益	261	173	109	61	151	139
法人税等	64	24	37	11	40	37
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	5	4	7	3	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	195	144	68	43	108	97

## ◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	17年度			18年度				(億円)	
	9月末	12月末	3月末*	6月末	9月末	12月末	3月末	19年度 6月末	19年度 9月末
資産									
流動資産	4,595	4,755	4,779	5,205	5,465	5,227	5,239	5,116	5,255
固定資産	4,943	5,031	5,041	5,076	5,063	4,930	4,968	4,910	5,052
合計	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307
負債・純資産									
負債	5,560	5,673	5,737	6,047	6,193	5,860	5,934	5,860	6,103
(内 有利子負債)	3,411	3,475	3,442	3,852	4,007	3,740	3,692	3,743	4,076
純資産	3,978	4,113	4,082	4,234	4,335	4,297	4,272	4,166	4,204
合計	9,538	9,786	9,820	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307

\* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前期対比]

(億円)

	18年度実績			19年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
マテリアル事業	1,344	1,295	2,639	1,238	1,132	2,370	-106	-163	-269
繊維・製品事業	1,540	1,643	3,183	1,542	1,578	3,120	+2	-65	-63
複合成形材料事業ほか	436	458	894	478	472	950	+42	+14	+56
マテリアル 計	3,320	3,396	6,716	3,258	3,182	6,440	-62	-213	-276
ヘルスケア	804	771	1,575	789	711	1,500	-15	-60	-75
その他	270	325	595	314	346	660	+44	+21	+65
<b>合計</b>	<b>4,394</b>	<b>4,492</b>	<b>8,886</b>	<b>4,360</b>	<b>4,240</b>	<b>8,600</b>	<b>-34</b>	<b>-252</b>	<b>-286</b>
営業利益									
マテリアル	146	89	235	129	106	235	-17	+17	+0
ヘルスケア	219	136	355	194	116	310	-24	-20	-45
その他	26	46	72	39	41	80	+13	-5	+8
消去又は全社	-28	-33	-61	-25	-50	-75	+3	-17	-14
<b>合計</b>	<b>362</b>	<b>238</b>	<b>600</b>	<b>338</b>	<b>212</b>	<b>550</b>	<b>-24</b>	<b>-26</b>	<b>-50</b>

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前回見通し\*対比]

(億円)

	19年度前回見通し*			19年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
マテリアル事業	1,295	1,225	2,520	1,238	1,132	2,370	-57	-93	-150
繊維・製品事業	1,650	1,750	3,400	1,542	1,578	3,120	-108	-172	-280
複合成形材料事業ほか	455	485	940	478	472	950	+23	-13	+10
マテリアル 計	3,400	3,460	6,860	3,258	3,182	6,440	-142	-278	-420
ヘルスケア	760	740	1,500	789	711	1,500	+29	-29	0
その他	300	340	640	314	346	660	+14	+6	+20
<b>合計</b>	<b>4,460</b>	<b>4,540</b>	<b>9,000</b>	<b>4,360</b>	<b>4,240</b>	<b>8,600</b>	<b>-100</b>	<b>-300</b>	<b>-400</b>
営業利益									
マテリアル	140	145	285	129	106	235	-11	-39	-50
ヘルスケア	185	125	310	194	116	310	+9	-9	0
その他	25	50	75	39	41	80	+14	-9	+5
消去又は全社	-30	-40	-70	-25	-50	-75	+5	-10	-5
<b>合計</b>	<b>320</b>	<b>280</b>	<b>600</b>	<b>338</b>	<b>212</b>	<b>550</b>	<b>+18</b>	<b>-68</b>	<b>-50</b>

\* 前回見通しは2019年8月2日公表

## ◆ セグメント別 経営指標

	18年度 実績	19年度 見通し	差異	(億円)	
				19年度 前回見通し*1	前回見通し との差異
EBITDA*2					
マテリアル	564	620	+56	690	-70
ヘルスケア	473	435	-38	435	0
その他	100	110	+10	105	+5
消去又は全社	-61	-85	-24	-80	-5
<b>合計</b>	<b>1,076</b>	<b>1,080</b>	<b>+4</b>	<b>1,150</b>	<b>-70</b>
					(%)
営業利益ROIC*3					
マテリアル	5%	5%	-0%	6%	-1%
ヘルスケア	35%	34%	-1%	34%	0%
<b>合計</b>	<b>9%</b>	<b>8%</b>	<b>-1%</b>	<b>9%</b>	<b>-1%</b>

\*1 前回見通しは2019年8月2日公表

\*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*3 「営業利益÷投下資本\*」にて算出 \*投下資本 = 純資産+有利子負債-現金及び預金



## ◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 <sup>*6</sup>	18年度 実績	19年度 見通し
ROE <sup>*1</sup>	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	8%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	8%
EBITDA <sup>*3</sup> (億円)	1,060	958	1,155	1,076	1,080
1株当たり当期純利益 (円) <sup>*4</sup>	158.1	254.9	231.3	232.4	177.3
1株当たり配当金 (円) <sup>*4</sup>	35	55	60	70 <sup>*</sup>	60
総資産 (億円)	8,234	9,641	9,820	10,207	10,500
有利子負債 (億円)	3,033	3,762	3,442	3,692	3,800
D/Eレシオ <sup>*5</sup>	1.01	1.11	0.88	0.90	0.9
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	40%

\*100周年記念配当10円/株を含む

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本<sup>\*</sup>」にて算出

\*純資産＋有利子負債－現金及び預金

\*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

## ◆ 発展戦略 (新規事業) の進捗 2019年度2Qのトピックス

### マテリアル： 複合成形材料事業、米国テキサス州に工場新設

CSP社は、自動車向け複合成形材料事業の北米拠点を強化。テキサス州セギーン市の事業用地に、約70百万ドルを投じて従業員200人規模の生産拠点を新設します。

新工場は、帝人グループにおいて、北米で14カ所目、グローバルでは25カ所目の複合材料部品の生産拠点となります。

帝人グループは、Tier1 サプライヤーとして、素材から部品設計におよぶ技術力の向上や、グローバルな供給体制の拡充で、環境規制に対応した車体の軽量化に貢献し、2030年近傍には自動車向け複合材料製品事業で売上2,000百万米ドル規模を目指しています。

### ヘルスケア： リンケージと資本・業務提携、睡眠分野からフレイル予防まで

帝人株式会社は株式会社リンケージに出資し、業務提携を強化します。これまで、リンケージと契約する健康保険組合の特定保健指導の対象者に対し、不眠や睡眠障害の抑制を目的として、帝人グループが展開する「Sleep Styles 睡眠力向上プログラム」をカスタマイズしたサービスを提供してきました。

今後は、睡眠分野に加えて業務提携の範囲を禁煙、フレイル\*の重症化予防などにも広がっていきます。両社の提供強化で、少子高齢化を背景とした医療資源不足や地域格差といった社会的課題に対して、オンライン診断・健康支援サービスの提供で貢献します。

\* 加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態

◆ 医薬品事業・在宅医療事業の組織再編（2019年10月より）

総合サービスを提供する事業体を目指し、医薬・在宅医療の強みを最大限に発揮する組織へ変革

現組織

医薬事業本部

医薬営業部門

マーケティング室

医薬研究開発部門

医薬生産技術部門

在宅医療事業本部

在宅医療営業部門

帝人在宅医療(株)

在宅医療新規事業部門

在宅医療企画技術部門

新組織(2019/10～)

営業本部

営業企画・支援部門

帝人在宅医療(株)

研究開発技術本部

生物医学総合研究所

医薬開発・生産部門

在宅医療企画技術部門

医薬専門情報提供力

×

在宅医療患者ケアを通じた関係構築力



- 他社にない独自の強みを持つ営業スタイルへ
- 地域密着型の総合ソリューション提供

医薬×在宅医療研究開発力



技術を融合した新たな価値創造を促進

## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	18年度					19年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	87	87	102	82	358	99	103
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	26	25	27	22	100	25	23
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	5	4	4	4	17	4	4
ベニロン®	重症感染症治療剤	13	13	14	12	53	16	15
ムコソルバン®	去痰剤	10	10	12	9	41	9	7
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 胼・神経内分泌腫瘍治療剤	8	9	10	10	37	11	11
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	6	6
ラキシベロン®	緩下剤	4	3	3	3	13	3	3
トライコア®	高脂血症治療剤	3	2	2	1	8	1	1
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	11	3	2

\*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp &amp; Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2019年9月末現在)

\* 承認取得/上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階			
	Phase II	Phase III	承認申請	承認取得/上市*
骨・関節 領域		ITM-058 NT 201L	NT 201* <sup>1</sup>	
呼吸器 領域	PTR-36			
代謝・循環器 領域	TCF-12 TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK	ITM-014T		STM-279* <sup>2</sup>
その他	JTR-161* <sup>3</sup>	GGs-MPA* <sup>4</sup>	GGs-ON* <sup>4</sup>	GGs-CIDP* <sup>5</sup>

\*1 2019年8月に製造販売承認申請を実施

\*2 2019年3月に「アデノシンデアミナーゼ欠損症」に対する製造販売承認を取得

\*3 2018年10月 急性期脳梗塞の適応取得に向けた第I/II相試験に着手

\*4 ベニロンの適応拡大として開発中

\*5 ベニロンの適応拡大として、2019年8月に「慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の筋力低下の改善」に対する適応追加の承認を取得

## ◆ 新規開発医薬品 (2019年9月末現在)

## 【承認取得/上市\*】

\* 承認取得/上市は直近1年間を記載

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
STM-279 (エラペグアデマーゼ (遺伝子組換え))	ADA (アデノシン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社 2019年3月承認取得
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 (多巣性運動ニューロパチーを含む)	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年8月承認取得

## 【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NT 201 (インコボツリヌストキシンA)	上肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 2019年8月承認申請
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年3月承認申請

## ◆ 新規開発医薬品 (2019年9月末現在)

## 【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201L (インコボツリヌストキシンA)	下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加)



## ◆ 新規開発医薬品 (2019年9月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症~重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 米GB001社
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病 (進行性) における尿毒症症状の改善及び末期腎不全 (ESRD) 発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品



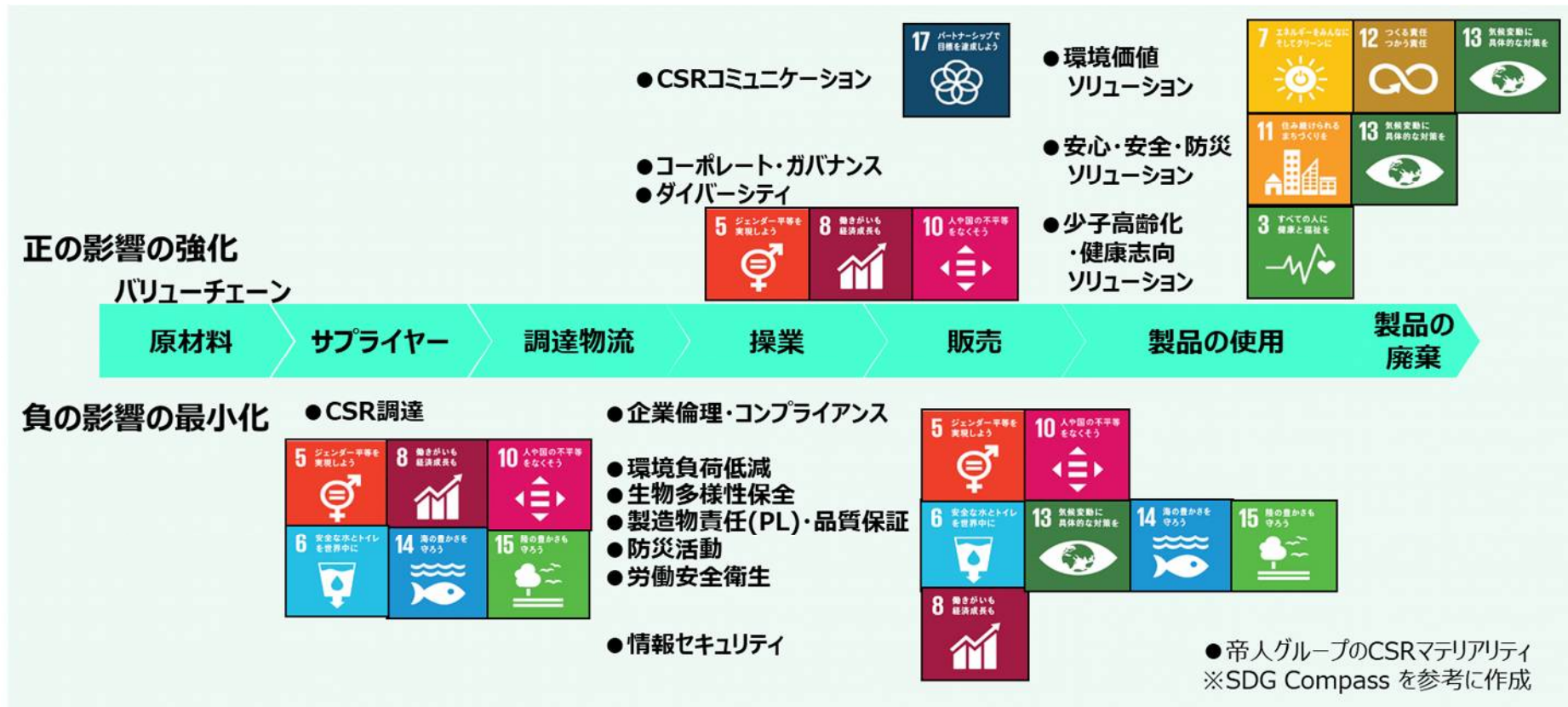
## ◆ 新規開発医薬品 (2019年9月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67HK (フェブキソスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加)
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

◆ 非財務情報 帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



## ◆ 非財務情報 ESG外部評価

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



### ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定 (経済産業省と東京証券取引所との共同主催)



***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*